

1. 略歴

- 1985年3月 東京大学文学部中国語中国文学専修課程卒業
1985年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程入学
1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程修了
1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程進学
1988年9月 中華人民共和国北京大学中国語言文学系留学（～1990年2月）
1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程退学
1990年4月 神奈川大学外国語学部専任講師
1993年4月 神奈川大学外国語学部助教授（～1995年3月）
1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
1998年3月 文部省在外研究員に採用され、中国広州市中山大学に於いて研修（～1998年12月）
2013年1月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）
2019年4月 東京大学大学院人文社会系研究科長・文学部長（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国語学、中国古文字学

b 研究課題

(1) 上古中国語の文法研究

構文と文法範疇の相関的変容の諸相、及びそれに関与する様々なファクターの解明を目指している。

(2) 戦国秦漢出土文字資料の研究

戦国秦漢時代の出土文字資料の解読の他、言語がどのように文字化されたかという視点に基づき、地域毎の用字法の相違、秦による文字統一の実態や文字政策に関する探究を行っている。

c 概要と自己評価

研究課題(1)に関しては、上古の中国人が認識した世界をどのように言語化したのか、コーパスと残された文献の背後にはどのような世界が広がっているのかという新たな問題意識から研究を進めている。研究課題(2)に関しては、統一前後の出土資料における漢字の使用実態の解明を進めているが、近年は秦系や楚系の文献に見られる他国の文字影響に着目し、一筋縄ではいかぬ文字の歴史の複雑性に焦点を当てている。

d 主要業績

(1) 論文

ONISHI Katsuya, 「An Investigation of Clerical Script in Chu Regions during the Qin and Han Periods, and its Relationship to “Scribal Writing”」、『Bamboo and Silk』、vol.1, no.2, pp.359-402、2018

大西克也、「説“見”——清濁音變構詞另解」、『歴史語言學研究』、12、pp.14-26、2018.10

大西克也、「《清華染越公其事》「坳塗溝塘」考」、『第三十屆中國文字學國際學術研討會論文集』、pp.285-294、2019.5

大西克也、「論上古漢語代詞“之”和“其”的替代功能」、『歷時語言學研究』、13、pp.269-283、2019.10

大西克也、「「雅言」獻疑」、『東京大学中国語中国文学研究室紀要』、22、pp.11-32、2019.11

大西克也、李無未、「发现“东京大学在学证书”：解开中国语言学理论奠基者胡以鲁之谜」、『東京大学中国語中国文学研究室紀要』、22、pp.55-72、2019.11

(2) 学会発表

国際、大西克也、「也說清華簡从“黽”之字」、紀念清華簡入藏暨清華大學出土文獻研究與保護中心成立十周年國際學術研討會、清華大学、2018.11.18

国際、大西克也、「試論上古漢語被動句及其世界觀——以動力表達爲線索」、The annual meeting of the International Association of Chinese Linguistics、神戸市外国語大学、2019.5.10

国際、大西克也、「簡談漢字學在日本的情況」、第三十屆中國文字學國際學術研討會綜合座談「近年漢字文化圈的發展與變化」、國立成功大學、2019.5.24

国際、大西克也、「“弗”爲“不之”合音說之我見」、第八屆出土文獻青年學者國際論壇、國立中興大學、2019.8.15

(3) **研究テーマ**

文部科学省科学研究費補助金、大西克也、研究代表者、「中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究」、2018～

文部科学省科学研究費補助金、大西克也、分担者（代表者は東大外）、「シナ=チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論」、2018～

3. 主な社会活動

(1) **学会**

国内、日本中国語学会、会長、2018.4～2020.3